

11. 宮地第2遺跡

所在地 大泉村西井出1800-1

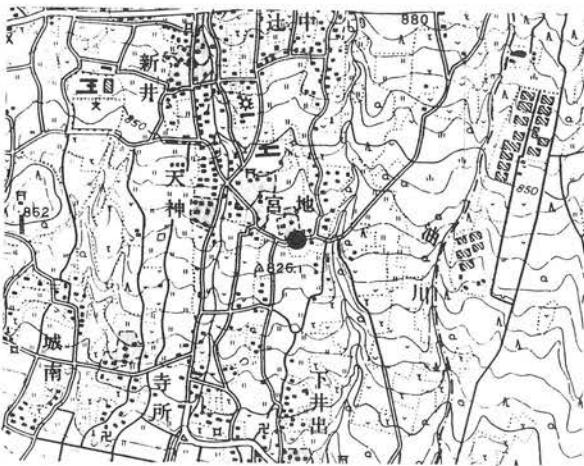
調査原因 自然崩落による緊急調査

調査期間 1999年9月28日～10月1日

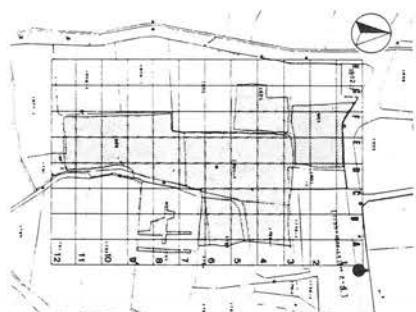
調査面積 6 m²

調査主体 大泉村教育委員会

担当者 伊藤公明・渡邊泰彦



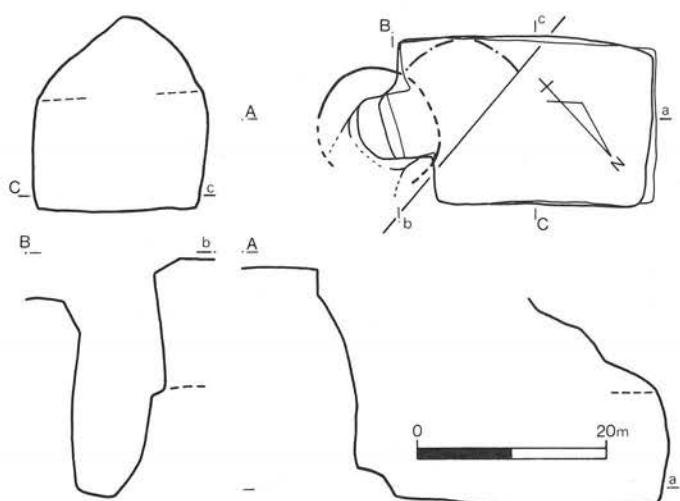
本遺跡は平成2年度に調査された宮地第2遺跡に含まれるもので、前回の調査でも地下式土壙が11基確認されている。竪坑は表土下20cmの深さで、推定径140cmの円形と考えられる平面プランが確認された。その断面形は漏斗状で、確認面から210cmの深さで底部に達し、そこから階段状に一段下がった面から地下室の底面へと続く。確認面から地下室の底面までは240cmを測る。地下室の平面形は北辺270cm、東辺160cm、南辺230cm、西辺170cmの長方形を呈し、西辺の中央で竪坑と接続する。底面から天井までは、削られた壁面の高さから判断すると110～120cmの高さであったと推測される。また、この遺構の東側に、竪坑の途中から接続するもう一つの地下式土壙のあることも確認された。宮地第2遺跡内で同様の構造を持つ例として、4号と7号地下式土壙が挙げられる。遺物は、埋土中よりヒテ鉢の破片と常滑焼の小破片が出土している。



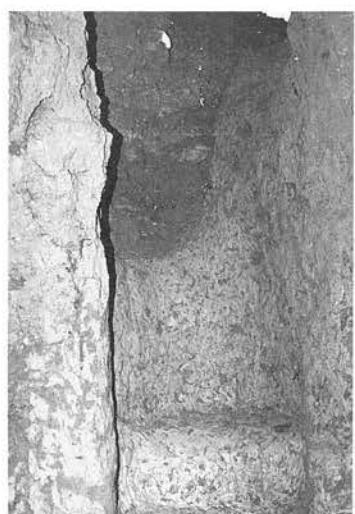
前回の調査区との位置関係



地下式土壙（上から）



宮地第2遺跡 地下式土壙 (S=1/80)



竪坑（黒色土部分で他の土壙と接続する）